

【目次】

- 児童生徒の変化に気づく、チームで見守る
- 児童生徒を自然災害・熱中症事故から守る

---

□児童生徒の変化に気づく、チームで見守る

---

●小さなサインを見逃さない

5～6月は不登校の児童生徒の急増期です。緊張の連続だった4月の疲れや連休中の解放感からの反動で、児童生徒の中に心身の不調や友達関係のトラブルなどの問題が起ころし始めます。児童生徒の表情、言動等の変化に目を向け、小さなサインを見逃さないことが大切です。

●情報は共有してこそ生きる

「グループ活動に参加しない」「授業中にぼんやりする」「言葉遣いや服装が乱れている」等、児童生徒の変化に気づき、その「気づき」を校内で共有できているでしょうか。教育相談コーディネーターを中心にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフを含めた学校内対策会議等で共有し、背景にある課題を見極めましょう。

●保護者もチームの一員

保護者は学校で子どもがどのように過ごしているか、知りたいと願っています。日ごろから子どもたちの頑張る姿を伝えることで、子どもを真ん中に置いた保護者との信頼関係が生まれます。気がかりな情報も早めに伝えあえる関係を育て、問題行動の際の重要なポイントである「保護者への一早い情報提供による信頼に基づく適切な初期対応」を目指しましょう。

---

□児童生徒を自然災害・熱中症事故から守る

---

●出水期が近づいています

児童生徒の命を守るため、(※)災害ハザードマップなどにより学校周辺で想定される水害・土砂災害等を確認しましょう。そのうえで、災害リスクに対する実践的な訓練(引渡訓練、抜き打ち訓練等)や、学校周辺の危険箇所・避難経路の点検などの対策を実施して、6月以降の出水期に備えましょう。

※災害ハザードマップの限界

各市町村等が作成している災害ハザードマップは、河川氾濫時の浸水想定や土砂災害の危険場所等が記載された地図であり、計算上の想定や、ある条件のもとで作成されており、あくまで想定範囲です。防災対策を考えるときは、実際の地形の特徴を見て、災害ハザードマップの想定を超えた対策を考えることが大切です。

●熱中症に注意しましょう

「めまい、失神、筋肉痛、手足のしびれ、頭痛、吐き気、けいれん」や単に気分が悪いなど、熱中症の症状は多様です。屋内・屋外、運動中・運動以外を問わず児童生徒に上記の症状が見られる場合は、まず熱中症を疑いましょう。早めの水分・塩分補給、体温の冷却、病院への搬送などと併せて管理職や養護教諭等への報告、保護者への連絡など適切な対応を迅速に行いましょう。

※「熱中症に注意しましょう」(学校安全・安心支援課)を参考にしてください。

URL⇒ <http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/2001799.html>

---

※過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

→ <http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課

URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>